



天野進吾が視る。語る。今日のできごと。まつりごと。

ホームページを見てください <http://www.amano-shingo.info>

## 駅前再開発の起工式に臨んで

### ―どうなった美術館構想―

平成22年、「紺屋町街づくり研究会」が誕生して既に16年、この間、バブル経済の崩壊によって研究会も臥薪嘗胆の日々を過してまいりましたが、去る7月9日、盛大に起工式が行われ、愈々、再開発に着手した処であります。

もとより、多くの地権者や権利者の思惑が交錯する中で、大同に立つての出発は誠に同慶に耐えないところであり、市民の一人として感謝するものがあります。

平成22年3月を竣工予定としており、この完成によって、政令指定都市の玄関口に相応しい景観が生ずるものと期待いたします。

ところで、昨年の5月号のScopeで提案した「美術館構想」について、その後の経過についてこの際、記載しておきます。

昨年の12月、市役所から市選出の県会議員に「来年度の国への要望事項」について説明したので、市役所に来庁された旨、通知があり、出かけたところ、僅か40分程度で説明は終了、そこで私は、丁度いい機会であるのでひとつ提案したいと前置きし、小嶋市長に、再開発ビル内に予定される美術館について、私案を披瀝したのであります。

それが既述した「静岡市立ポーラ美術館」の構想であります。

曖昧な笑いの中で小嶋市長は意図する所を充分に理解出来ぬまま、検討を約束、説明会を終了しました。

爾来、今日まで市からは一片の回答がないまま、9日の起工式を迎えたのであります。

勿論、この再開発事業は民間企業によるものであれば、市といえ容易に我儘は申し上げられないのは承知の上ですが、一方では、35億円もの静岡市からの補助金に加え、3階のフロアを30億円の巨費もって購入するも、明らかに、この事業を推進するための方便であります。またこれが誕生した暁には、このラ

ンドマークにルノアール・セザンヌ・ピカソなど印象派作家の絵を展示する美術館の存在は、本市の顔となつて行政目的にも貢献できるものと確信するものであります。

今年になって、知り合いの市幹部職員が道すがら、私に「ポーラには貸し出すほど、絵はないようです」と小声で告げましたが、まさかそれが市の正式回答とは思いません。しかもその言葉から察するに市当局は、ポーラ化粧品に対して具体的な折

## 奈良国立博物館を訪ねる

梅雨を間近にした奈良公園は小雨に濡れて、屯する鹿は広い芝生広場で三々五々、草を食んでいました。

先月の終わり、私は機会あつて奈良国立博物館に「仏教工芸展・古玩逍遙」と題する特別展示展に出かけました。

その道すがら私は、「県立博物館」を持たない都道府県はここ奈良県と静岡県だけであり、しかも奈良には国立があれば県立は無用、語る所、博物館がないのは本県のみであることを思い出していたのであります。

以前、本会議の一般質問の際、私は県立博物館のない県について、知事に質したことがありましたが、知事は博物館の意義については、理解したものの、建設に対する意欲は殆どなかったと記憶しております。

もし、県立であれ市立であれ博物館が用意されていれば、この度の「奈良詣」でもなかったと思えます。

さて、訪館の目的は以前より親しくお付き合い戴いて参りました市内に住む実業家（匿名希

衝は一切せず、恐らく私の提案については歯牙にもかけなかったでありましょう。

平成元年、駿府博に際して、万難を排して協力いただいたポーラ美術の集大成というべき「印象派」展の成功は未だ脳裡から消えるものではありません。

譬え困難な事業であれ、「ダメもと」の精神で挑戦する姿勢が今の行政には肝要ではないでしょうか。

望)が、半世紀を費やして蒐集した膨大な骨董の中から、この度「密教法具」のみを奈良国立博物館に寄贈、これを顕彰しての特別展が開催される処となり、考古学については全くの「門外漢」を自認する私ではありますが、何故か誇らしげな想いの中で「文化の薫」に挑戦したのであります。

JR奈良駅の構内はもとより、博物館までの道程には「仏教工芸展・古玩逍遙」のポスターが掲示され、氏から寄贈された品々の重みが伝わってくるのであります。

数年前、整理も出来ないほどに蒐集した膨大な骨董品の扱いについて、家族会議を開いた結果、これを所望する博物館等に寄付する方針を固め、これまでに全国数ヶ所の博物館に寄贈されてきたのであります。

奈良国立博物館に収められた「密教法具」もその一部であります。

ところで、この家族会議の最中、本県には県立博物館がないことに落胆したこととであります。若し既設されていたなら、感うことなく、県民として誇りをもって寄贈できたと、今更ながら悔やんでおりました。

# 「丸子と手越」の周辺

東海道五十三次の「丸子の宿」は万葉の歌にも詠われているように平安末期、源頼朝から土地が与えられ、設けられた新駅のひとつであり、鎌倉の初頭から街道を行き交う旅人で賑わいのある地域として発展してまいりました。

天保年間（1840年頃）の資料によれば、丸子宿は、本陣1、脇本陣2、旅籠24軒とこの地域の繁栄振りを如実に物語っております。

「丸子」の地名は「長田村誌」によれば「麻呂子」即ち男子を意味する名前とあります。

余談ですが、日本では昔から船の名前に「何々丸」と命名しておりますが、これは漁師にとつて船は高価でもあり、大切なものでした、ですから恰もわが子のように船の名前に男児の名称「丸」をつけたのがその始まりと云われております。

これに対して「手越」は向敷地から丸子宗小路に向う坂道を「手児の呼び坂」といい、これが略されて手越となったと云われており、「手児」とは広辞苑にもありますが、少女を意味します。さて、丸子といえは有名な神社・仏閣のある処です、そこで今月は大鈿の誓願寺を訪ねます。

## 臨濟宗妙心寺派 大鈿山誓願寺

鎌倉幕府を開いた1192年、源頼朝が両親の追善供養のために建立した浄土宗の寺でしたが、1545年、武田と今川の勢力争いの渦中に火災にあ

い焼失、その後武田信玄が穴山梅雪に命じて再興、この時、臨濟宗に改宗しました。また、1602年、家康から30石の寺領と山林諸役免除の朱印状を拜命するなど、丸子地域の名刹として今日に至っております。

しかし誓願寺を有名にさせた歴史的一ページに、片桐且元の無念の死があります。

京都方広寺の大仏殿建立に際し、徳川方は梵鐘に書かれた「国家安康」の文字が家康の名前を切り裂いたと難癖をつけ、これを端緒に徳川の豊臣つぶしが表面化したのであります。

## 一寸一言 私の雑記帳から

### 寄稿、村山正平（元静岡市教育長）

先月のShingo Scope に記載したマカオへの航空機乗り入れの記事に関連して、嘗て担任であった村山正平先生がマカオに関する面白い歴史の一齣を紹介してくれました。

マカオにポルトガル人が居住するようになったのは15〜16世紀頃から、中国では明の時代、その頃の後宮の美女たちは、途轍もなく高価な香料のひとつに「竜涎香」がありました。この香料は遠洋航海術に長けたスペインやポルトガルの商人からしか入手することはできませんでした。

その際、豊臣方の重臣片桐且元が、秀頼の命を受けて駿府に家康を訪ね、弁明を申し出たが目的を果すことができず、結局、大坂冬の陣に突入、豊臣家は滅亡するところとなります。苦渋の日々を当山で過した且元は、遂に目的を果たせず、丸子の地で自害したのであります。

当寺には片桐且元夫妻の墓石と共にゆかりの遺品があります。



何故なら「竜涎香」とは胆嚢癌になって死んだ抹香鯨の腹から取り出せる香料であり、極めて希少であるがために、明王朝は1557年、ポルトガル人に対しこれを取得するためにマカオに居住する特権を与えたのでした。

将に西欧の「大航海時代」の落し子といえるでしょう。なお、現在も島と平島とを結ぶ大橋を渡るマカオの嬌声が嘘のように、今でも静寂なポルトガルの雰囲気を感じる町があります。なお広辞苑には次のように説明されております。

抹香：香の名。沈香と極檀との粉末、仏前に用いる。  
抹香鯨：優秀な鯨油が採れ、また腸内に竜涎香という香料を分泌する。

## 彩時記

～ふるさとで、観光地で、盆踊りの輪に！～

8月の風物詩といえば盆踊り。盆踊りの由来は、念仏を唱えながら踊る「念仏踊り」です。お盆に迎えた先祖の霊を慰め、再び送り出すための踊りとして、各地で行われるようになりました。

お盆のシーズンになると、各地域の神社やお寺、広場などでさまざまな盆踊り大会が開催されます。ふるさとに里帰りした懐かしい顔が揃うのも、盆踊りの楽しみのひとつです。標準的なスタイルは、広場の真ん中に櫓を立てて歌や太鼓を奏で、その周りを輪になって踊るもの。また、列を作って踊りながら練り歩くものもあります。

日本を代表する三大盆踊りは、秋田県羽後町の西馬音内盆踊り、徳島県徳島市の阿波踊り、岐阜県郡上市の郡上おどり、いずれも全国津々浦々からの大勢の観光客でにぎわいます。今年の夏、あなたはどこの町で盆踊りの輪に加わりますか？

## 歴史講座のお知らせ

町内会の集会、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。嬉しいことに最近、グループや町内会などで『天野進吾』の歴史講座の要望が増えて参りました。

このSHINGO SCOPEの郷土史が好評です。その現れかもしれません。どうぞ、お気軽にお声掛けください。